

**京都刑務所敷地の活用を核とする  
未来の山科のまちづくり戦略(素案)**  
～山科の発展に向けた土地利用を目指して～

**京 都 市**

## <目 次>

---

1-1. 戦略策定の目的	1
1-2. 戦略の位置づけ	3
2. 山科区の魅力	4
3. 山科区の現状	6
(1) 「まち」の現状	6
(2) 「ひと」の現状	8
(3) 区民の実感	10
4. 山科区の将来の見通し	11
5. これからの山科区のまちづくりの方向性	12
6. まちづくりの方向性を実現するうえでポイントとなるエリアの設定	14
7. 5つのエリアの状況及び今後のエリアの方向性	16
8. 戦略の推進に当たって	20

## 1-1. 戦略策定の目的

### (1) 京都市が京都刑務所など国有地の有効活用に取り組む趣旨

京都市では、京都の未来を見据え、更なる経済の活性化、人口減少社会の克服など、京都の発展に向けてまちづくりを進めていくためには、本市が所有する土地だけでなく、国有地、さらには民有地を含め、あらゆる土地の利用の可能性を追求することが重要であると考え、交通利便性の高い市街地に所在する国有地等について、魅力あるまちづくりに資する有効活用を実現しようと取組を進めています。

### (2) 魅力あふれる山科のまち

山科は、1400年を超える歴史と豊かな自然に恵まれ、住民自治の伝統が脈々と受け継がれ、人と人のつながりがとても温かいまちです。また、区内には、JR 線、京阪線、地下鉄が走り、高速道路のインターチェンジが2箇所設置されているなど、交通利便性の高いまちです。さらに、近年は、犯罪件数(刑法犯認知件数)が6年間で6割も減少し、いまでは市内 11 行政区で人口当たりの犯罪件数が2番目に少ない安心安全のまちになりました。

こうしたこともあり、平成29年の人口の社会動態では4年ぶりに転入超過となりました。

### (3) 将来の山科のまちの見通し

そんな山科区が、今、大きな時代の転換点を迎えています。

昭和 30 年から昭和 51 年にかけて急増した人口は、昭和 55 年以降ほぼ横ばいで推移していましたが、これからは本格的な人口減少社会に突入し、高齢化や少子化が一層進みます。人口の減少は、経済の縮小や地域コミュニティの機能低下、空き家の増加など、深刻なまちの活力の低下をもたらします。

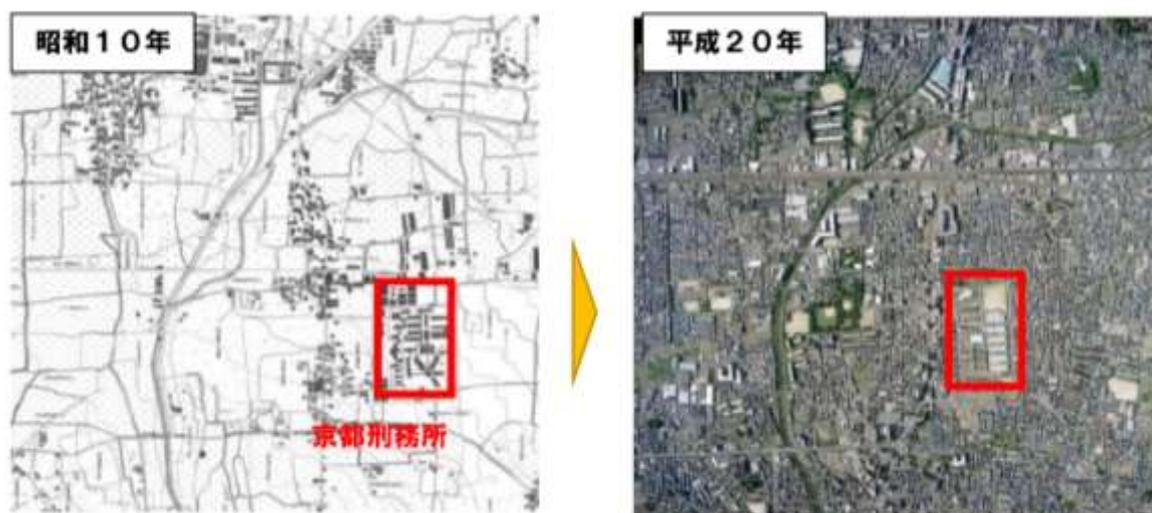
#### (4) 「未来の山科のまちづくり戦略」

そこで、京都市では、子どもや孫の世代になっても山科が活力に満ちた魅力的なまちであるために、山科の未来にとって非常に大きな可能性を秘める京都刑務所(※)の敷地活用を核として、これからの山科の持続可能なまちづくりの方向性を示す指針として「未来の山科のまちづくり戦略」を作成します。

今後、本戦略に掲げる刑務所敷地の活用案を国に提示し、刑務所の移転をはじめとする有効活用の更なる検討を要望してまいります。

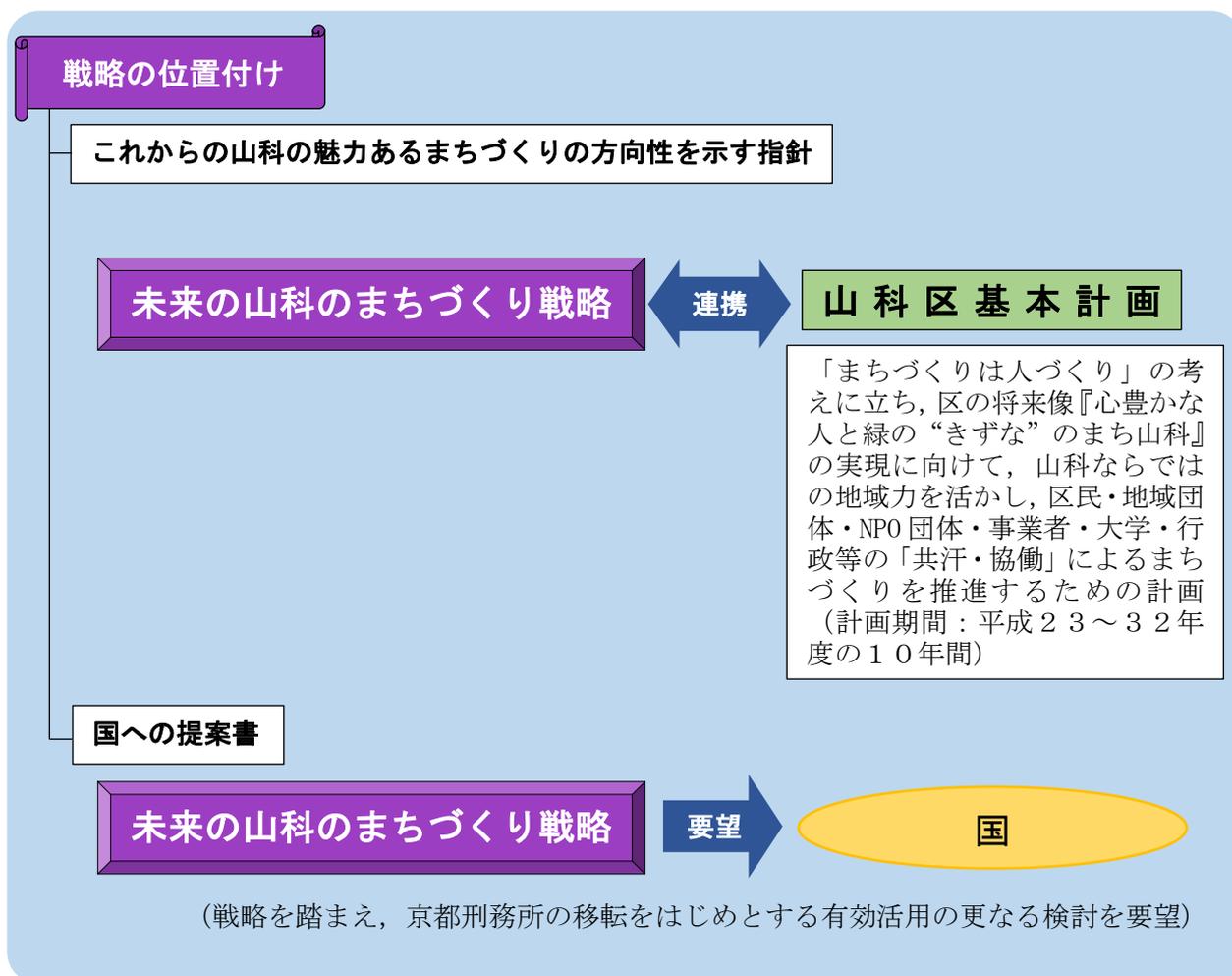
※ 京都刑務所は、昭和 2 年に、当時はまだのどかな田園風景が広がる現在地に移転されました。その後 90 年以上が経過する中で、周辺の宅地化が進むとともに、地下鉄東西線や京都高速道路が開通し、交通利便性が飛躍的に高まるなど、周辺環境は大きな変貌を遂げました。

現在、市内の都市部で約 10.7 ヘクタール(3 万 2 千坪)という広大な土地を確保することは極めて難しく、京都市では、この土地の活用が山科区の持続可能で魅力あるまちづくりはもとより、京都全体の発展にも大きく寄与するものと考えており、これまで、国に対して刑務所の移転をはじめとした有効活用を要望しています。



## 1-2. 戦略の位置づけ

本戦略は、山科の将来を見据え、京都刑務所敷地の活用を核として、これからの山科の持続可能で魅力あるまちづくりの方向性を示す指針であると同時に、山科はもとより、京都・近畿の発展、さらには、国策としての地方創生を推進する観点から、京都刑務所敷地の有効活用の検討を国に促すための提案書として位置付けます。



## 2. 山科区の魅力

### (1)安心安全のまち

○山科区の人口(千人)当たり刑法犯認知件数は、西京区に次いで全市で下から2番目に少なく、安心安全のまちです。

○平成25年と比較して、市全体の減少割合(約40%)を上回るペース(約45%)で減少しています。

	刑法犯 総数(件)	人口(千人)当たり 刑法犯数(件)	順位
北区	799	6.73	3
上京区	786	9.25	7
左京区	1,171	6.95	4
中京区	1,675	15.11	9
東山区	576	15.19	10
山科区	877	6.51	2
下京区	1,496	18.08	11
南区	1,173	11.60	8
右京区	1,475	7.23	6
西京区	792	5.28	1
伏見区	1,950	6.99	5
京都市	12,770	8.67	—

出典:京都市統計データ

【安心安全確保に向けた山科ならではの市民力・地域力を活かした地域ぐるみの取組】

- ・ 防犯カメラの設置
- ・ 登下校時の見守り
- ・ パトロール活動



### (2)交通の要衝

○JR線、京阪京津線、地下鉄東西線の3路線が走っており、「京都の東の玄関口」として、交通の要衝となっています。

○山科駅の1日当たりの平均乗車人員は約5万8千人(平成28年度)で、京都市内では京都駅、四条・烏丸駅に次いで、3番目に多くなっています。

○区内に2つのインターチェンジがあり、高速道路へのアクセスも良好です。



出典:google map

#### 山科駅の1日平均乗車人員(平成28年度)

路線名	駅名	1日平均乗車人員 (人)
JR	山科	34,219
京阪京津線	京阪山科	2,268
地下鉄	山科	21,567
		計 58,054

(参考) 京都駅、四条烏丸駅の1日平均乗車人員(平成28年度)

路線名	駅名	1日平均乗車人員 (人)
JR、地下鉄、近鉄	京都	352,066
地下鉄、阪急京都線	四条烏丸	94,838

出典:京都府統計書

### (3) 伝統産業の集積, 伝統野菜や観光農園の振興, 2つの大学の立地

- 清水焼団地など伝統産業の集積があり, 伝統工芸品が製作されています。
- 山科なす等の京の伝統野菜, ぶどう等の観光農園などの地域資源が存在しており, 観光資源としても活用されています。
- 京都橘大学, 京都薬科大学の2つの大学が存在します。



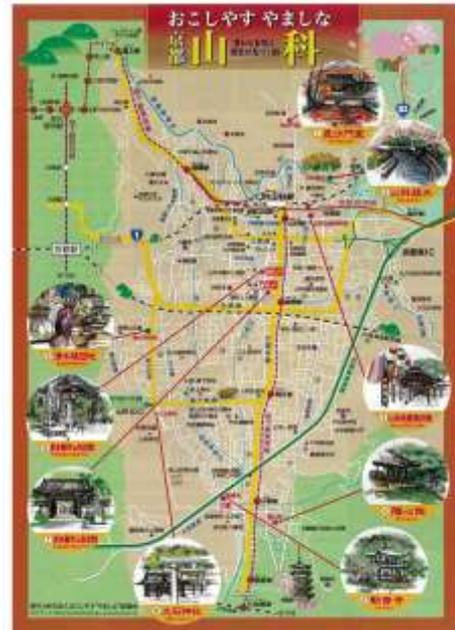
大陶器市  
「清水焼の郷まつり」



山科なす

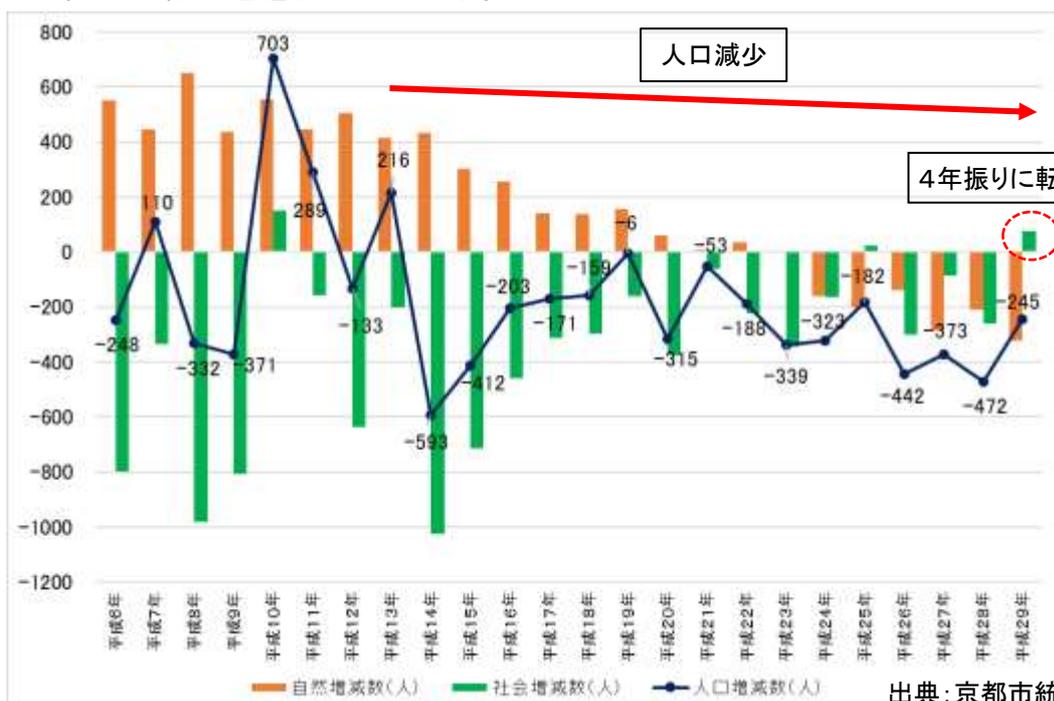
### (4) 豊かな自然, 歴史・観光資源

- 山科疏水(琵琶湖疏水)をはじめ, 森林や河川など豊かな自然に恵まれています。
- 豊かな歴史を背景に多くの歴史・観光資源に恵まれ, 赤穂義士大石内蔵助良雄ゆかりの大石神社, 勧修寺, 毘沙門堂, 随心院などの寺院が観光スポットとなっています。



### (5) 人口増減

- 山科区では, 概ねこの20年間は, ゆるやかな人口減少の傾向にあります, 直近の平成29年には4年ぶりに転入超過となっています。



出典: 京都市統計データ

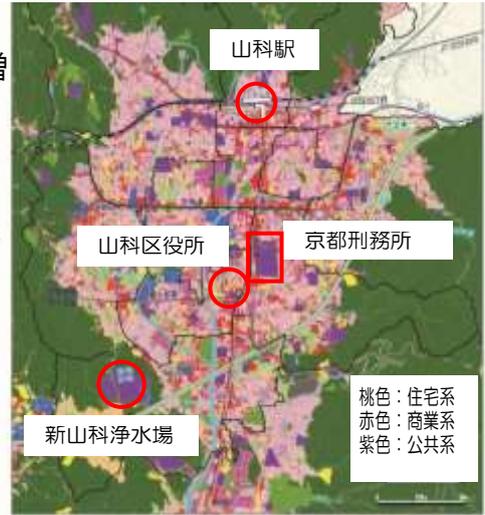
### 3. 山科区の現状

#### (1)「まち」の現状

##### 土地利用の状況

＜山科の土地利用状況＞

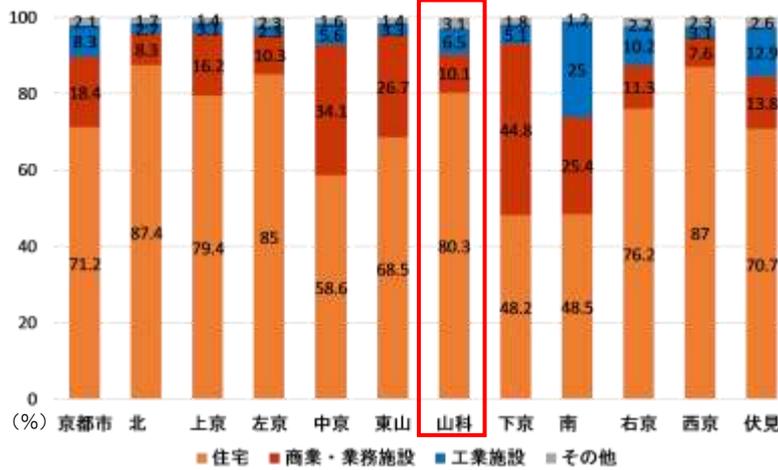
- 山地に囲まれた盆地内部は昭和期の人口増加の影響により、大半が住宅地です。
- 商業系は、山科駅周辺から幹線道路(五条通, 外環状線)沿いに集まっています。
- 農地や駐車場, 空き地などが, 新十条通北部, 名神高速道路南部に点在しています。
- 公共系では, 新山科浄水場が最も敷地面積が大きく, 次に京都刑務所が大きくなっています。



出典: 国土地理院資料

##### 建物用途の状況

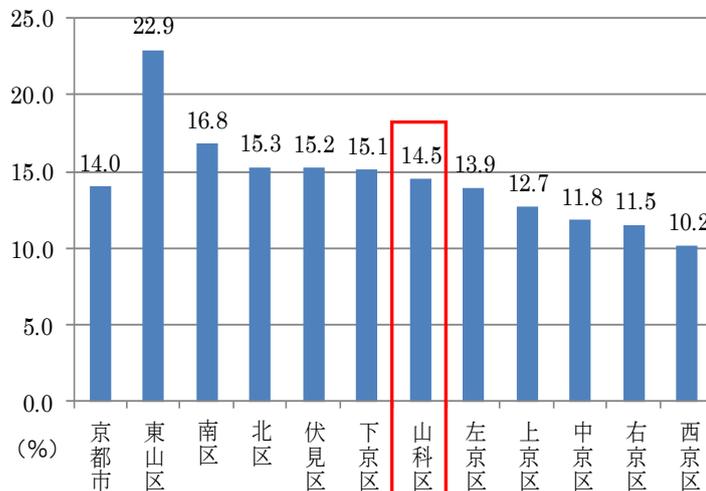
○建物用途別の延床面積の比率では, 山科区は住宅が80.3%で, 市全体の比率よりは高く, 商業業務施設, 工業施設は市全体よりも低い値です。



出典: 都市計画基礎調査 (平成 28 年)

##### 空き家の状況

○空き家率は, 14.5%と全市平均を上回っており, 1 万戸を超える空き家(10,140 戸)が存在しています。



出典: 平成25年住宅・土地統計調査

福祉

- 保育所については、利用児童数が利用定員を下回っており、定員充足率は全市で下から4番目に低くなっています。
- 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)等の事業所定員数は、全市で2番目に多くなっています。

保育所の定員充足率 (%)



出典:京都市統計資料(平成 30 年 4 月 1 日)

介護老人福祉施設等のサービス事業所定員数(人)



出典:京都市統計資料(平成 29 年 12 月末)

事業所数

- 卸売, 製造業事業所数は, それぞれ全市で下から4番目に少なくなっています。
- 小売業事業所数は, 全市で下から2番目に少なくなっています。

事業所数(卸売, 製造業, 小売業)

	卸売	製造業	小売業
北 区	255 ⑨	724 ⑥	1,088 ⑦
上京区	347 ⑥	1,012 ③	1,111 ⑥
左京区	280 ⑦	387 ⑨	1,381 ⑤
中京区	857 ②	1,084 ②	2,236 ①
東山区	164 ⑪	373 ⑩	1,020 ⑧
山科区	276 ⑧	502 ⑧	821 ⑩
下京区	1,216 ①	721 ⑦	1,800 ②
南 区	709 ④	1,204 ①	1,015 ⑨
右京区	405 ⑤	983 ④	1,391 ④
西京区	189 ⑩	328 ⑪	758 ⑪
伏見区	734 ③	934 ⑤	1,751 ③
京都市	5,432	8,252	14,372

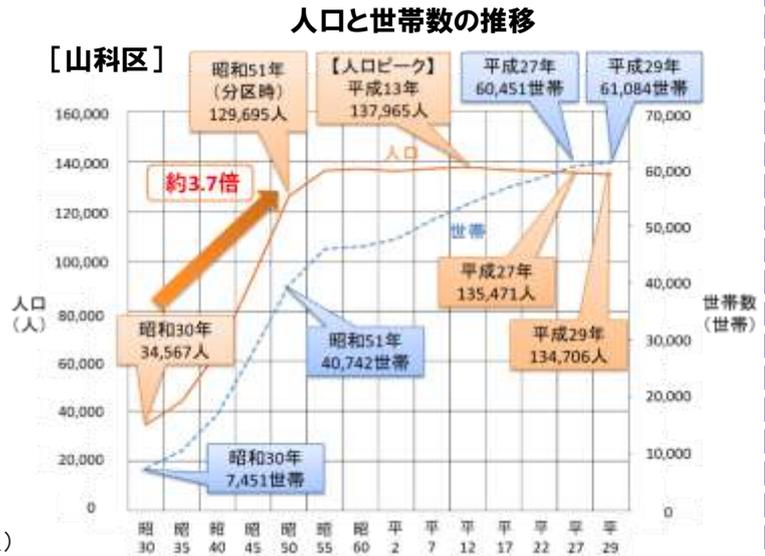
<丸数字は, 行政区別の順位(高い順)>

出典:平成 26 年商業統計調査, 平成 26 年経済センサス

## (2)「ひと」の現状

### 人口の変化

○昭和 30～40 年代に急激に人口が増加しましたが、その後、13 万人前後で横ばいに推移し、ここ数年はゆるやかに減少しています。



### 高齢化の進行

○山科区の高齢化率(総人口に占める65歳以上の人口の割合)は、平成7年は全市で下から2番目の低さでしたが、この20年間で急速に高齢化が進み、直近では東山区に次いで、全市で2番目に高くなっています。

	京都市	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
平成7年	14.7	16.1 <sup>⑤</sup>	20.4 <sup>③</sup>	16.1 <sup>⑤</sup>	19.6 <sup>④</sup>	22.4 <sup>①</sup>	11.9 <sup>⑩</sup>	21.0 <sup>②</sup>	14.2 <sup>⑦</sup>	13.2 <sup>⑧</sup>	10.2 <sup>⑪</sup>	11.9 <sup>⑨</sup>
平成12年	17.4	18.8	22.4	18.8	20.9	25.5	15.4	23.0	16.9	16.6	12.5	15.0
平成17年	20.1	21.2	23.8	20.9	21.2	27.6	18.9	23.3	19.2	20.2	16.2	18.4
平成22年	23.0	24.3	25.2	23.7	23.4	30.0	23.4	22.7	21.2	23.1	20.2	22.1
平成27年	26.7	27.7	27.1	26.9	24.6	32.8	29.1	23.2	24.5	27.0	25.6	26.7
平成29年	27.5 <sup>③</sup>	28.5 <sup>⑦</sup>	27.4 <sup>⑥</sup>	27.6 <sup>⑧</sup>	24.9 <sup>②</sup>	33.4 <sup>①</sup>	30.5 <sup>⑩</sup>	23.2 <sup>④</sup>	25.2 <sup>⑤</sup>	27.9 <sup>⑨</sup>	26.9 <sup>⑥</sup>	28.0 <sup>④</sup>

(%)  
<丸数字は、行政区別の順位(高い順)>

出典: 平成29年分は、京都市による独自推計値(10月時点)。それ以外は、国勢調査

### 生産年齢人口の減少

○山科区が生産年齢人口比率(総人口に占める15歳以上～65歳未満の人口の割合)は、平成7年は全市で最も高かったが、この20年間で減少が進み、直近では全市で最も低くなっています。

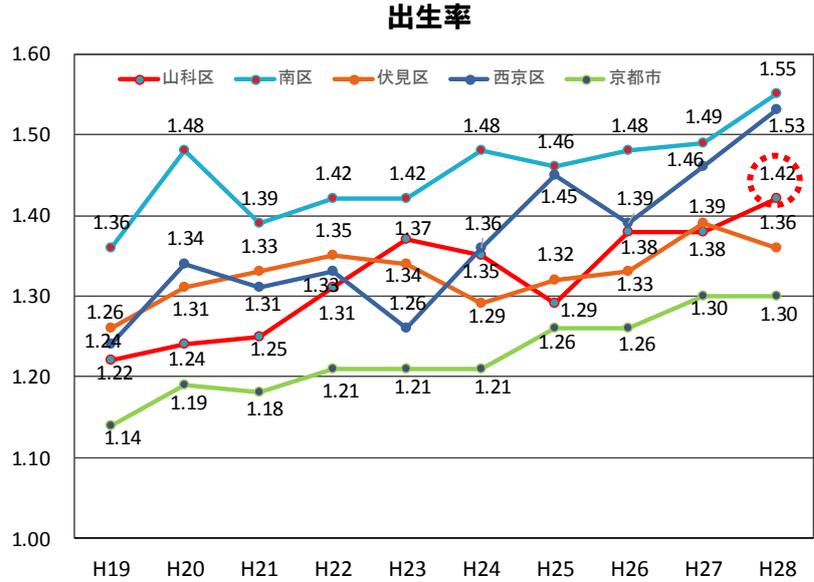
	京都市	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
平成7年	71.6	71.4 <sup>⑤</sup>	69.6 <sup>⑧</sup>	72.0 <sup>④</sup>	69.5 <sup>⑨</sup>	68.6 <sup>⑩</sup>	73.5 <sup>①</sup>	68.5 <sup>⑪</sup>	70.8 <sup>⑦</sup>	72.8 <sup>②</sup>	72.0 <sup>④</sup>	72.1 <sup>③</sup>
平成12年	69.8	69.2	68.0	69.9	68.8	66.6	71.3	67.1	69.5	70.1	71.3	70.5
平成17年	67.8	67.2	66.9	68.5	68.9	65.0	68.3	67.1	68.2	67.0	68.5	67.9
平成22年	65.1	64.2	65.2	65.6	66.0	62.8	64.2	67.5	66.6	64.6	65.3	64.7
平成27年	60.1	61.5	63.4	62.4	64.8	59.4	59.3	67.1	63.7	61.2	61.0	61.2
平成29年	61.3	60.9 <sup>⑥</sup>	63.1 <sup>③</sup>	61.7 <sup>⑤</sup>	64.6 <sup>②</sup>	58.8 <sup>⑩</sup>	58.2 <sup>⑪</sup>	66.8 <sup>①</sup>	63.1 <sup>⑦</sup>	60.5 <sup>⑧</sup>	60.0 <sup>⑨</sup>	60.4 <sup>⑥</sup>

(%)  
<丸数字は、行政区別の順位(高い順)>

出典: 平成29年分は、京都市による独自推計値(10月時点)。それ以外は、国勢調査

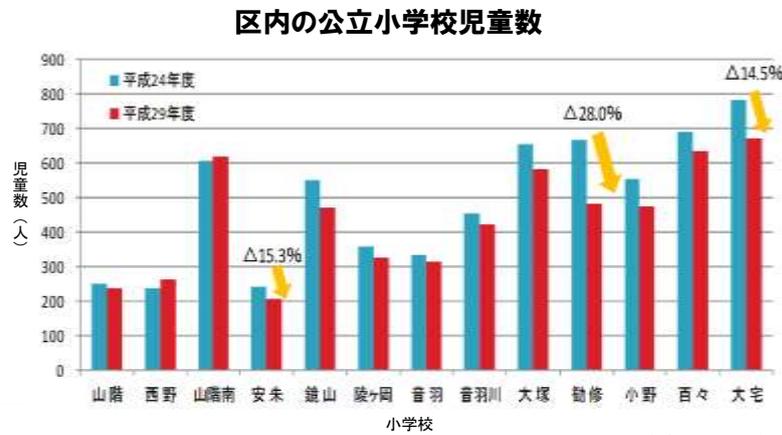
子どもの状況

○出生率は、近年は増加傾向にあり、直近では全市で上から3番目に高い値です。



出典：京都市統計資料

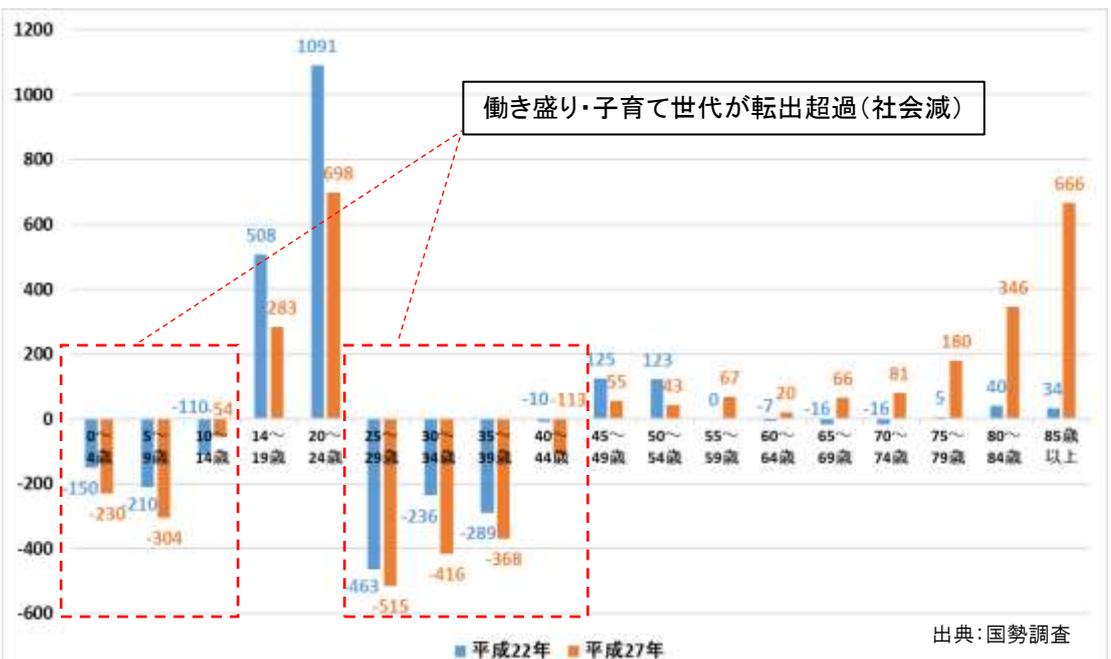
○山科区内の公立小学校の児童数は、一部を除いて減少傾向であり、直近5年間(平成24年度～29年度)で、区全体で10.7%減少(全市：4.2%減)しています。



出典：京都市統計資料

転出入の状況

○14～24歳の年齢層で大きく社会増となっている一方、0～14歳、25～44歳の年齢層では社会減となっています。



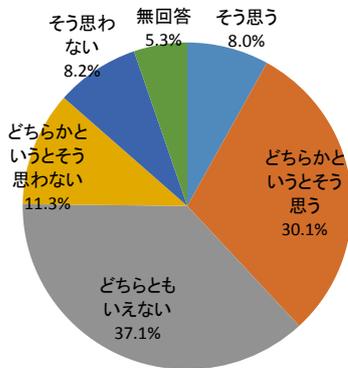
出典：国勢調査

### (3) 区民の実感

#### まちの魅力

○「まちに親しみ、まちと暮らしを十分に楽しんでいる」との肯定的な評価は約4割となっています。

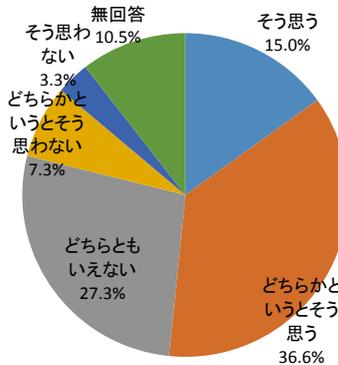
[問] 山科区では、いろいろなひとが、山科のまちに親しみ、まちと暮らしを十分に楽しんでいる。



#### 地域コミュニティ

○町内会や自治会等の地域活動について、5割以上の方が活発と評価しています。

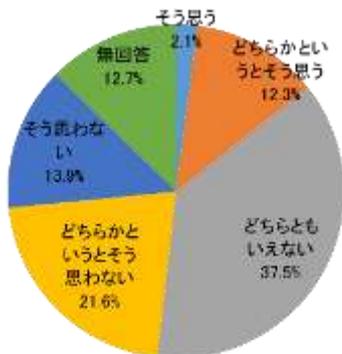
[問] 山科区では、町内会や自治会等の地域活動が活発である。



#### 生涯学習

○肯定的な回答は1.5割に留まり、生涯学習に関する更なる取組が必要です。

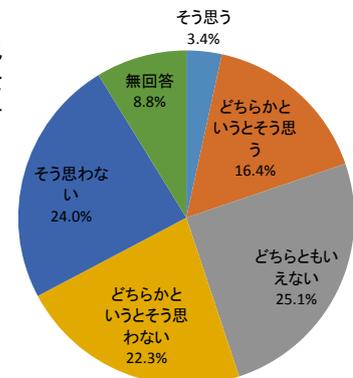
[問] 山科区は、幅広い世代が気軽に学ぶことができる機会や施設が充実している。



#### 安心安全

○治安に関しては否定的な回答が半数近くあり、人口当たりの刑法犯認知件数が全市で2番目に少ないという客観的事実とギャップがあります。

[問] 山科区は、犯罪や事故が少なく、安心して暮らせるまちである。

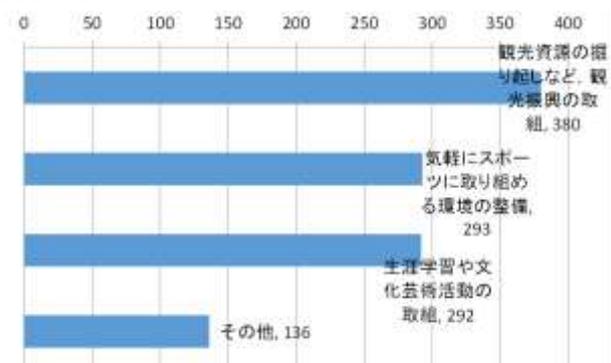


#### まちの魅力向上に必要なもの

○まちの魅力向上として「観光振興」を求める意見が多いです。

[問] 山科のまちの魅力を高めるために、必要なことは何だと思いますか。該当する番号を選び○を付けてください。当てはまらない場合は、その他にお書きください。

<複数回答可>



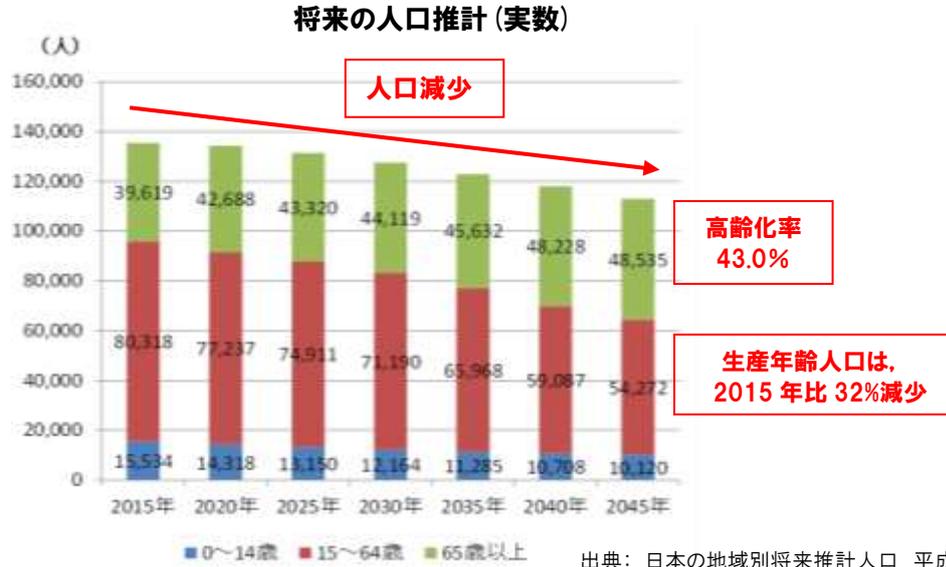
出典：「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果(平成28年10月実施)

## 4. 山科区の将来の見通し

### 高齢化の進行と生産年齢人口の減少

○約 30 年後の 2045 年には、

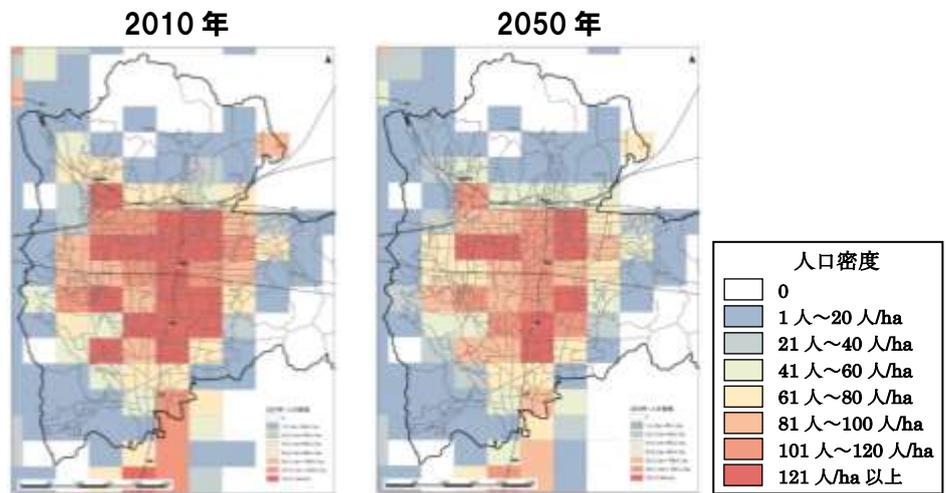
- ①人口は、約 17%減少（全市平均:約 12%減少）
- ②生産年齢人口は、約 32%減少（全市平均:約 23%減少）
- ③高齢化率は、43.0%(全市平均:36.4%)に上昇



### 人口密度の低下と空き家の増加

○人口減少に伴い、市街地の人口密度も全体的に低下します。特に、現在人口密度の高い地下鉄沿線、駅周辺部での低下が顕著になると予測されます。

○それに伴い、空き家も相当数増加していくことが予測されます。



人口密度の変化 (500m メッシュ) 出典：国土数値情報



こうしたことは・・・

**経済の縮小やコミュニティの機能低下、空き家の増加など、まちの活力の深刻な低下をもたらすおそれがあります。**

## 5. これからの山科区のまちづくりの方向性

今の山科区の姿と将来のまちの見通しを踏まえ、子や孫の世代になっても、山科が持続可能で活力に満ちた魅力的なまちであるために、これからのまちづくりの方向性を設定します。

### 今の山科区

### 将来の見通し

#### 山科の魅力

- 市民力、地域力が強い
- 安心安全のまち
- 交通の利便性が高い
- 豊かな自然、多くの歴史・観光資源が存在



#### 人口構造の変化

- 約 30 年後の 2045 年には、
  - ・人口は、約 17%減少  
(全市平均:約 12%減少)
  - ・生産年齢人口は、約 32%減少  
(全市平均:約 23%減少)
  - ・高齢化率は、43.0%に上昇  
(全市平均:36.4%)

#### 空き家の増加

- 人口減少に伴い、市街地の人口密度が減少
- 空き家の増加

#### 山科の「まち」

- 盆地内部は宅地化が進み、ほぼ大半が住宅地
- 新たに活用できるまとまった土地が乏しい
- 製造・小売等の事業所が少ない

#### 山科の「ひと」

- 昭和期に人口が急増したが、近年は緩やかに減少
- 高齢化が急速に進行  
(直近では市内 11 行政区で 2 番目に高い)
- 生産年齢人口が急速に減少  
(直近では市内 11 行政区で最も少ない)
- 出生率は高いものの、小学生の年代になると親子で区外へ転出する傾向がみられる

経済の縮小やコミュニティの機能低下、空き家の増加など、  
まちの活力の深刻な低下をもたらすおそれ

**<目指す姿>**  
住んで、働いて、訪れて、楽しく美しいまち・山科へ！

これを実現するためには…

## これからの山科区のまちづくりの方向性

### (1) 若者から高齢者まであらゆる世代が住みよいまち・コミュニティの維持

山科は、自然に囲まれ、豊かな歴史を持ち、京の東の玄関口として交通利便性の高い住宅地として発展を続けてきました。

地域の行事や、多世代のコミュニティの繋がりがしっかりと引き継がれ、住みやすいまちとして区民の皆さんにも評価されています。

この良さをしっかりと守り、若者から高齢者まであらゆる世代が、山科に愛着を持ち、山科に暮らしたい、住み続けたい、住んで良かった、と心から実感できるまちづくりを進めます。

### (2) 子育て世代など新たな定住者を呼び込むまちづくり

まちの持続的な発展には、次代を担う子ども、子育て世帯に山科に住んでもらうことが重要です。しかし、現状では、子育て層の減少傾向が見られ、まちの実態とイメージのギャップも指摘されています。

このため、事業所誘致を進め、今以上に雇用の場を生み出すことに加え、より良好な住環境や教育環境を創るとともに、山科の持つ魅力や資源、コミュニティのつながりを活かし、子どもや子育て世帯に山科で暮らしたい、暮らし続けたいと思ってもらい、定住へと繋げるまちづくりを進めます。

### (3) 次代の山科の魅力を創り出すまちづくり

山科区は、豊かな自然や多くの歴史・観光資源があり、交通利便性が高いほか、地域コミュニティの繋がりが強く、安心安全なまちであるなど、暮らす魅力に溢れています。

子や孫の世代になっても、まちが持続可能で活力に満ちた魅力的なまちであるために、こうした山科の魅力をしっかりと発信しながら活かすとともに、次代に向けて、山科のまち全体のイメージを大きく変革する、新しい魅力を創造するまちづくりを進めます。

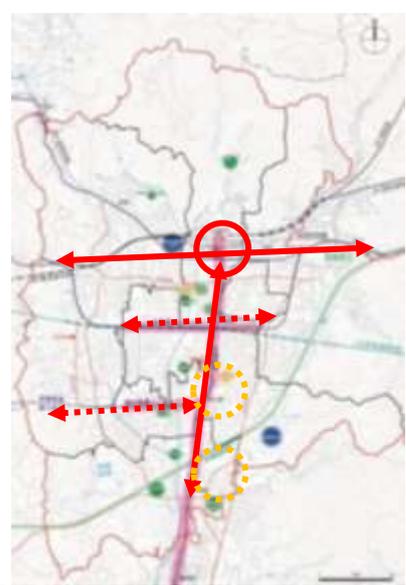
## 6. まちづくりの方向性を実現するうえでポイントとなるエリアの設定

子どもや孫の世代になっても、山科が持続可能で活力に満ちた魅力的なまちであるよう、これからの山科区の土地の利用のあり方を含めたまちづくりの方向性を実現するうえでポイントとなるエリアを設定します。

### A

#### まちの構造から考える

- 東西(JR, 地下鉄等の鉄道/国道 1 号, 三条通等の幹線道路)+南北(地下鉄, 外環状線)の T 字型のまちの構造を活かした活性化が必要です。
- 賑わい創出拠点となっている山科駅周辺の一層の活性化が必要です。
- 人の流れを作り, まちや人が生き生きとするため, 山科駅周辺以外の賑わい創出拠点を形成し, 拠点をつなぐ必要があります。
- 山科のまちの構造上, 山科駅周辺と柳辻駅周辺は, まちの賑わい拠点となっており, 両者をつなぐことで, 山科の活性化に繋げることができます。



### B

#### ひとの状況から考える

- 人口は, ここ数年はゆるやかに減少しています。
- 今後, 高齢化が進み, 生産年齢人口が減少する中, 若い世代を呼び込む取組が必要です。
- 高齢者と若い世代の交流や地域コミュニティ・つながりの維持・活性化など, 暮らす魅力を高める取組が必要です。

高齢化率の山科区と学区の比較(平成 27 年)

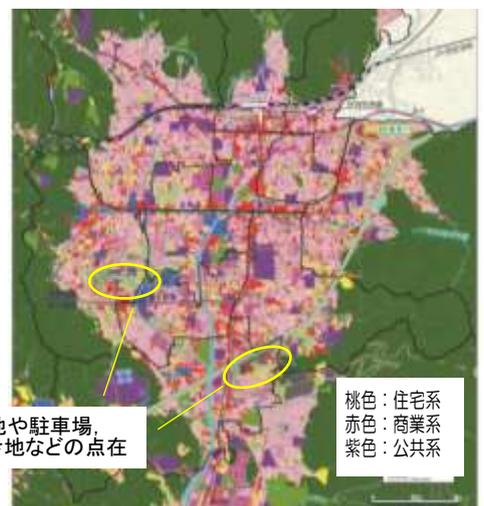


出典: 国勢調査

### C

#### 土地利用・今後の変化から考える

- 盆地内部は宅地化が進み, まちの魅力を創出するために活用できる土地が乏しい現状です。
- 一部, 新十条通北部, 名神高速道路南部に農地や駐車場, 空き地などが点在しており, 山科の魅力創造に向けた有効活用が期待できます。
- 平成 31 年 4 月から京都高速道路新十条通が無料化される予定です。
- 国道 1 号バイパス(京都府~滋賀県)建設構想に向けた検討も進められつつあります。



農地や駐車場, 空き地などの点在

桃色: 住宅系  
赤色: 商業系  
紫色: 公共系

## 【5つのエリア】

### ①山科駅前エリア (A)

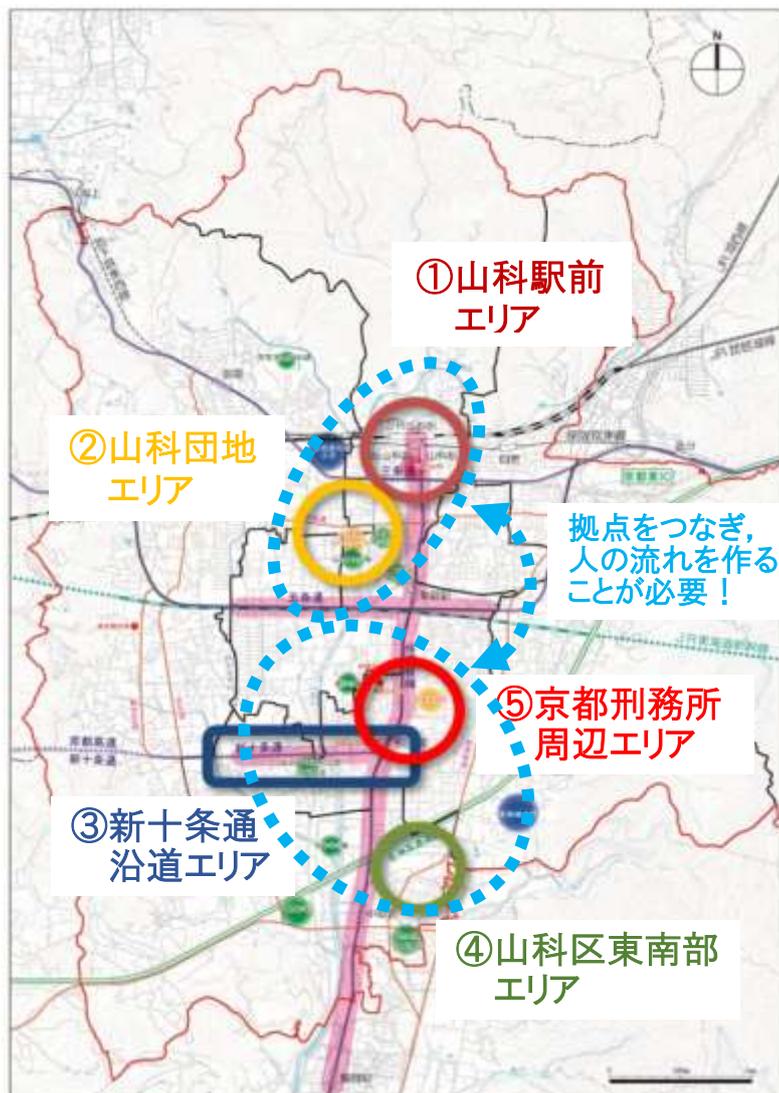
○京都の東の玄関，山科の顔であるエリアであり，更に賑わいを創出することが期待できるエリア

### ⑤京都刑務所周辺エリア (A+C)

○行政施設に加え，外環状線沿道に商業施設も集積しつつある  
○市が京都刑務所の移転をはじめとする有効活用の検討を実施しており，実現後の土地利用により山科の魅力創出に向けて非常にポテンシャルの高いエリア

### ②山科団地エリア (B)

○山科で最も大規模な市営住宅，公社分譲住宅などの共同住宅が集積するエリア  
○共同住宅率が75%もあり，今後，急激に高齢化が進む可能性が高い  
○子育て世代の入居促進などにより，高齢化が進む団地の活性化に向けた先進的事例を検討するエリア



### ③新十条通沿道エリア (C)

○沿道北部に農地や平面駐車場，空き地などが点在しており，今後，京都高速道路新十条通の無料化等で，山科の魅力創出に向けた有効活用が期待されるエリア

### ④山科区東南部エリア (A+C)

○外環状線や地下鉄小野駅にも近接する一方で，市街化調整区域が残されていること等を踏まえ，山科の魅力創出に向けた方策の検討が期待されるエリア

## 7. 5つのエリアの状況及び今後のエリアの方向性

### ①山科駅前エリア

#### エリアの状況

- ア JR、京阪京津線、地下鉄東西線の3路線が交わる山科駅の1日平均乗車人員は約5万8千人(平成28年度)で、京都の東の玄関口です。
- イ 市街地再開発事業により平成10年にラクト山科がオープンし、公共施設や商業施設、商店街等も接続する区の拠点となっています。
- ウ 現在、山科駅周辺で、マンションの立地が進んでいます。
- エ ラクト山科A棟ホテル(京都山科ホテル山楽)が、平成30年10月に、リニューアルオープンを予定しています。
- オ ラクト山科ショッピングセンター内に出店している大丸山科店が平成31年3月末で閉店し、京阪系列の新たな商業施設として、同年11月にオープンする予定です。



#### エリアの方向性

京都の東の賑わい拠点として、駅周辺を更に活性化するための方策を検討。

#### 具体的な取組例

駅周辺の商業施設について、駅利用者、とりわけ若年層を含む幅広い層を惹き付け、回遊性を高め、滞在時間を増やすような店舗構成の検討

### ②山科団地エリア

#### エリアの状況

- ア 山科市営住宅は昭和45~46年に建設され、全3棟、管理戸数は986戸です(トータルリモデル実施済)。
- イ 居住者の高齢化が進んでおり、入居戸数911戸のうち、高齢者を含む世帯数628戸(全市で2番目に多い)で、さらに高齢者の単身世帯数は330戸(全市で1番多い)です。
- ウ 敷地北及び西側は戸建住宅地で、東・南側は公社集合住宅(分譲:7棟, 1,095戸)で囲まれています。



#### エリアの方向性

子育て世帯を呼び込むとともに、大学との連携や学生との交流等による活性化、コミュニティ強化を図るための方策を検討。

#### 具体的な取組例

- ・ 子育て世帯優先入居枠の拡充の検討
- ・ 市営住宅の入居者や公社分譲住宅の居住者を対象とした見回りや居場所づくり等の取組の検討

### ③新十条通沿道エリア

#### エリアの状況

- ア 平成 20 年 6 月に、京都高速道路新十条通の供用が開始されました。
- イ 新十条通は、利用者数が少なく、並行路線である国道1号や外環状線で交通渋滞が発生している状況です。このため交通分担の適正化を図る目的で、新十条通の京都市への移管を要望し、平成 31 年4月から無料化される予定です。
- ウ 沿道は第二種住居地域、一部準工業地域(容積率 300%)です。
- エ 沿道には、旧安祥寺川沿いを中心に企業立地が見られる他、農地や駐車場、空き地等も分布しています。
- オ 今後、沿道の交通量増加とあわせて山科のまちの活性化や魅力の創出に向けて、更に有効利用できる余地があります。



#### エリアの方向性

山科の活性化・賑わいの創出、転入人口の増加を図るため、沿道エリアの有効活用を促進する方策を検討。

#### 具体的な取組例

- 沿道エリアについて、新十条通の無料化後の状況等を踏まえ、定住の受け皿となる宅地や、産業集積を図るための産業用地の創出など、有効活用に向けた方策を検討、同時に、交通量増加への対応も検討

### ④山科区東南部エリア

#### エリアの状況

- ア 山科区は、盆地平坦部はほぼ市街化区域に指定され、市街化されていますが、一部、市街化調整区域が残されています。
- イ 市街化調整区域では、原則、開発行為や建築行為が制限されています。
- ウ 介護老人保健施設や物流施設などがありますが、農地等を主体とした土地利用で、周辺は宅地化されており、西部、南部は戸建て住宅が建築されています。
- エ 外環状線に接し、地下鉄小野駅から近く、交通利便性の高いエリアです。



#### エリアの方向性

山科の活性化・賑わいの創出、転入人口の増加、企業誘致による雇用創出を図るため、この地域のまちづくりのあり方を検討。

#### 具体的な取組例

- 都市基盤整備状況や現在の土地利用状況を踏まえ、地域のまちづくりのあり方を検討

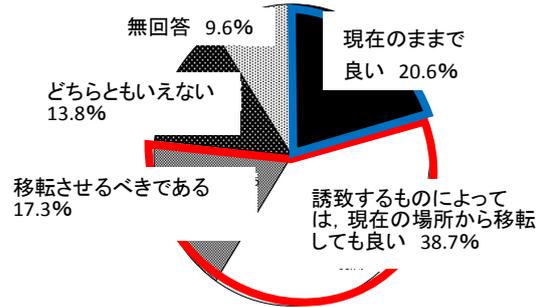
## ⑤ 京都刑務所周辺エリア

### エリアの状況

ア 京都刑務所は、昭和2年に、当時はまだ田園風景が広がる現在地に移転されました。  
 イ その後 90 年が経過する中で、周辺の宅地化が進むとともに、地下鉄東西線や京都高速道路が開通し、交通利便性が飛躍的に高まるなど、周辺環境は大きく変貌を遂げました。



ウ 現在、山科区役所周辺や外環状線沿道に集積する商業施設への人の流れが生まれています。  
 エ 平成 25 年 4 月から、市が法務省に、京都刑務所の将来の跡地活用等の検討を要望しました。  
 オ 区民アンケートによると、移転に肯定的な回答は約 6 割となっています。



### <エリアの方向性>

刑務所敷地は 10.7ha と、宅地化が進んでいる山科区だけでなく、市内でもこれほど広大な土地の確保は困難な状況です

刑務所敷地は利便性の高い区の中心部に位置し、その有効活用は、今後の山科のまちづくりに非常に大きな可能性・インパクトを与えます

敷地の活用により、山科のまちのイメージを大きく変革し、持続可能でより魅力ある、安心・安全なまちづくりを促進することが期待されます

山科の活性化の起爆剤として、さらには、市の将来の持続的な発展、国策としての地方創生の観点から、まちづくりの方向性に沿って、京都刑務所敷地の活用策を検討します。

### <望ましい導入機能>

#### <居住>

子育て世代から高齢者まで、あらゆる世代が住みよい、安心・安全で、住宅地としてのイメージアップに繋がる良好な居住環境を備えたまち

#### <新産業、働く場>

世界最先端の研究開発を行う企業誘致・産業集積を図り、安定した所得と新たな雇用を生み出し、定住者を呼び込むとともに、地域経済の成長を牽引し、好循環を実現するまち

#### <学び、交流>

学生、区民が学び、集い、交流する場となり、教育・生涯学習環境の向上にも繋がる大学等の教育施設が立地するまち

#### <文化・ものづくり・観光>

伝統産業等の資源を活かした文化・ものづくりの体験・発信・交流拠点を備えた新たな魅力を創造するまち

## 京都刑務所敷地の活用品案(導入機能・施設の展開例)

敷地の活用に当たっては、

- ① 10.7haもの広大な敷地であることや、複合的な活用による相乗効果が期待できることから、単一の機能・施設での活用ではなく、以下に示す例のうち複数の機能・施設を融合した多様な活用が望ましいと考えています。
- ② また、導入される個々の施設が周囲に対して閉鎖的でなく、外から見ることができ、内外の交流を促進するよう、デザイン面での配慮や、周辺道路等の交通基盤のあり方、周辺環境との調和等についても慎重に検討する必要があります。

### 定住を促し、暮らしを豊かにする機能

緑豊かで潤いと  
ゆとりのある  
良質な住宅

生活の利便性を  
高め、賑わいを創出  
する商業施設

子育て層、高齢者層など  
区民の安心な生活を支える  
福祉・子育て支援施設

<期待される効果(例)>

- ・安心・安全で良好な居住環境の整備
- ・居住イメージの向上

<期待される効果(例)>

- ・地域の雇用の創出
- ・職住近接の環境整備
- ・居住イメージの向上

### 安全・安心を向上させる機能

高度かつ先進的な  
防災機能を備えた  
オープンスペース

### 文化・ものづくり・観光を創造する機能

山科で連綿と継承される  
伝統産業や地元農産物等  
を活かした、文化・ものづくり  
の体験・交流・発信施設

### 産業を創造する機能

世界トップクラスの研究者・  
技術者が集い、京都ブランドを  
活かしたAIなど世界最先端の  
研究開発を行う研究機関・企業

山科のイメージを大きく変革し、かつ、  
新たな魅力を創造するため、  
これらのうち、複数の機能・施設を導入

<期待される効果(例)>

- ・研究者・技術者と学生との交流による  
新たなイノベーションの創出、  
優秀な人材の育成

<期待される効果(例)>

- ・芸術家・職人と学生との交流による、  
多様な感性による創作活動の促進、  
優秀な芸術家や担い手の育成

学生、区民が  
学び、集い、交流できる  
大学等の教育施設

### 教育・学びを高め 交流を促進する機能

柳辻駅方面

外環状線沿道や柳辻駅周辺のより一層  
の賑わい創出、機能集積も誘導

## 8. 戦略の推進に当たって

京都市では、京都の未来を見据え、更なる経済の活性化、人口減少社会の克服など、京都の発展に向けてまちづくりを進めていくためには、本市が所有する土地だけでなく、国有地、さらには民有地を含め、あらゆる土地の利用の可能性を追求しながら取り組むことが重要であると考え、交通利便性の高い市街地に所在する国有地等について、魅力あるまちづくりに資する有効活用を実現しようと取組を進めています(再掲)。

本戦略は、山科の将来を見据え、京都刑務所敷地の活用を核として、これからの山科の持続可能で魅力あるまちづくりの方向性を示す指針であると同時に、山科はもとより、京都・近畿の発展、さらには、国策としての地方創生を推進する観点から、京都刑務所敷地の有効活用の検討を国に促すための提案書として位置付けます(再掲)。

本戦略に掲げた「目指す姿」を実現するためのまちづくりの方向性については、行政が主として取り組むものもありますが、行政だけで全てを実現できるものではなく、山科ならではの地域力・市民力、民間の知恵と力を活かしていく必要があります。とりわけ、広大な面積を有する京都刑務所敷地の活用は、民間による活用が基本であると考えており、その実現に向けて、国の理解を得ながら進めていく必要があります。

こうしたことから、本戦略に掲げる「目指す姿」やまちづくりの方向性を、まちづくりの主体となる市民、事業者、大学、行政等が共有し、適切な役割分担のもとに、関係者との協働で、知恵と力を出し合いながら進めてまいります。